

嚴王品三箇の大事

第一 妙莊嚴王の事 みょうしょうごんのう 文句の十に云はく「妙莊嚴とは妙法の功德をもって諸根を莊嚴するなり」云云。

御義口伝に云はく、妙とは妙法の功德なり、諸根とは六根なり。此の妙法の功德を以て六根を莊嚴すべき名なり。所詮妙は空諦なり、莊嚴は仮諦なり、王は中道なり。今日蓮等のたくい類南無妙蓮華經と唱へ奉る者は悉く妙莊嚴王なり云云。

第二 浮木孔の事

御義口伝に云はく、く孔とはしょうく小孔だいく大孔の二つこれ之有り。小孔とは四十余年の經教なり、大孔とは法華經の題目なり。今日蓮等のいま類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは大孔なり。一切衆生はげん一眼のせんだん龜なり。梅檀の浮木とは法華經なり。生死の大海に妙法蓮華經の大孔ある浮木は法華經に之在り云云。

第三 当品邪見即正の事

御義口伝に云はく、嚴王の邪見、三人の教化に依って功德を得、邪をあらためて即正とせり。止の一に「辺邪皆中正」と云ふは是なり。今日いま日本国の一切衆生は邪見にして嚴王なり。日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は三人の如し。終につい畢竟ひっきょうじゅういちじょう住一乘して邪見即正なるべし云云。